

## 2024 すくわくプログラム活動実施報告書

1359410 きよせ幼稚園 Tシャツデザイン活動

「ねらい」

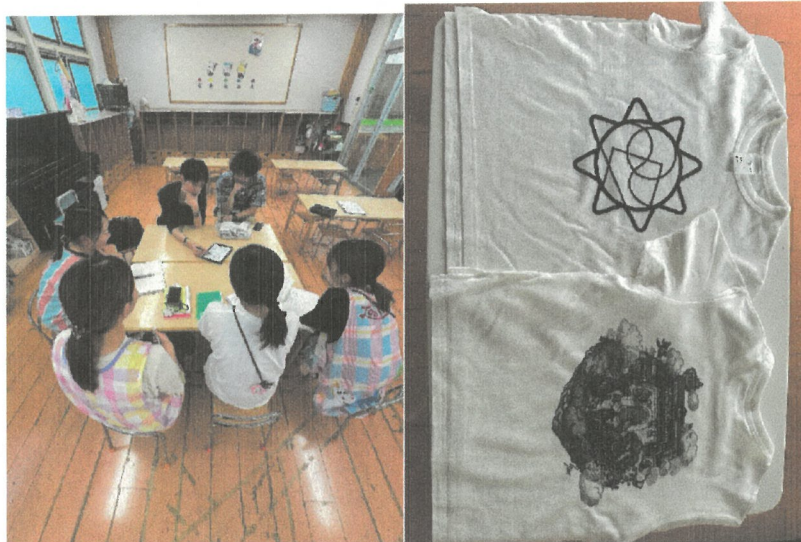
今の子どもたちが社会の中心で活躍する十数年後は「現在の延長線上にはない未来」と言われている。人工知能や先端技術の発展によって、今ある職業は消滅したり、形を変えたりするだけでなく、社会の仕組みまで変わることも考えられる。そのような社会で生きるためには、自ら「創り出す」「デザイン」するというクリエイティブな力が必要となると考える。デザイナーを職業としている人と出会い、デザインとはどんなことなのか、幼少期はどんな子どもだったのか等の話を聞いたり、形やイラストを一からデザインしてもらったTシャツへ、自分でカラーをデザインし、グループで試着・発表し、運動会でたくさんの人に自分の作品をみてもらう経験を通して、自らデザインすることへ興味関心を持つ。

「全体を通して感じたこと」

まずは、デザインを職業としている人との出会いの機会を子どもたちへ創れたことが一番の収穫ではないかと考える。大人になるまでの日常生活の中で、デザイナーに出会える機会をどれだけの人ができるだろうか。映像や図鑑からの知識だけでなく、デザイナーと「出会った」「一緒に服を作った」という記憶からデザインすることへ興味関心を持ち、予測不能な未来を自分たちで切り開きデザインしていくという力の根っことなることを期待する。UNRESS 矢嶋氏、S.LTD 中野氏には、初めての試みに全面的に協力頂き、感謝申し上げます。

打ち合わせ 6月1日・7月1日・7月16日

「体験授業で使用するTシャツづくりについて」



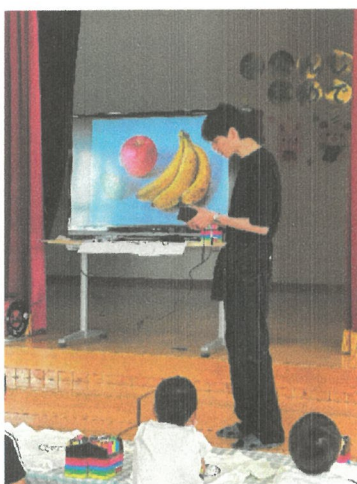
事前計画では、大枠はデザイナーと園長で2度に渡り企画を行い、詳細については担任及び主任を交えて、詰めていく作業をした。

前面のデザインは子どもたちの創造力を邪魔しないように、出来る限りシンプルなクラス名をモチーフにしたデザインとした。また、Tシャツの形や素材についても、長く着ることが出来るように、素材や形からこだわって打ち合わせをした。仕上がりはそのまま着ても申し分ない程、上質なものとなった。

Tシャツデザイン活動当日 8月28日・29日 (ポスカ15食で色付け)

「デザインサンプルの提示の仕方について」

子どもたちへ例を示すことが、自らの創造力を阻害してしまう可能性があるが、とっかかりの必要な子どももいる。導入で多くの例を提示し、活動中は提示をしない方向で進めることにした。結果、子どもたちのデザイン活動へのとりかかりはスムーズだったと感じる。



「デザイン活動の子どもたちの様子について」

一人の子から波及する面白さ、隣と全く一緒のデザインをしていたのに最後は独自性が入り別のもことになる不思議さ、内なる自分と対話をしながら黙々と細かなデザインを行う子、一番後ろのグループは他の影響を受けにくいのか独自性が高い仕上がりになるなど、様々な姿が見られた。

塗るだけでなく、点や線で表現したり、クラスのモチーフの形から飛び出し、余白部分にもデザインがダイナミックに広がっていく様子があったり、形だけに集中して色をデザインしていく姿があったり、それぞれが違ったデザインの仕方を自由に楽しんでいることを感じた。

大人から見ると、デザインの止め所とを感じる場面もあったが、止めることはしなかった。子ども自らが止めておけばよかったと後で思うかもしれないが、そういった経験をするのが、次はこうしてみようと思いを育むために大切なことである。



## 試着 DAY 9月30日

### 「試着 DAYの様子」

みんなではじめて T シャツに袖を通すと、子どもたちは嬉しそうに自分の作品を手でなぞる姿が見られた。そのうちに、まわりのクラスメイトの作品に興味を持ち始め、見せ合いっこをしたり、友達の作品を手でなぞる姿が見られた。いろんなデザインがあることを楽しんでいる様子だった。また、すでに T シャツの販売を考えている子もいて、値段付けの会話が聞こえてきた。

その後、大ホールに移動し、組体操を通して行ったが、いつもよりやる気に満ち溢れている雰囲気にも包まれた。ファッションデザイナー矢嶋氏も演技の様子を観察して頂き、子どもたちへメッセージを頂いた。



## 運動会総練習 10月2日



年中組・年長組運動会総練習の日も、本番仕様で T シャツを着て、練習を行った。

総練習で関わる先生たちにも、自分の T シャツのデザインを嬉しそうに見せる姿が見られた。

総練習後は家にも持ち帰るので、自宅でも披露する機会となった。運動会当日は家から着て登園してもらうご案内と、デザイナーたちの紹介及び洗濯時の注意などの周知文も配布した。

運動会当日 10月12日

「運動会の様子」

登園から一日Tシャツを着て過ごした。

良く晴れたので、子どもたちがデザインした様々なカラーとTシャツの白地がとても映えていた印象がある。全面プリントデザインは、みんなが違って個性が良く発信出来ていた。バックプリントは一緒というところも、子どもたちの仲間意識を深め、モチベーションが高まったようにも感じた。



運動会経験画（アウトプット） 10月18日

「振り返り」

運動会后、各クラスで運動会の経験画の活動を行った様子を共有しながら、運動会の振り返りを行った。

自分の服だけでなく、友達の服の絵も書く子どもたちが多く、今回のTシャツづくりの印象が強かったことがうかがえる。想像以上に子どもたちは、自分以外のデザインにも強い興味を示していたことを発見できた。

自分でデザインすることを楽しみ、披露した経験から、自ら自由にデザインすることや、他者のデザインへの興味が深まることを期待する。



「今後の展開について」

毎年、年長組は運動会のTシャツづくりを行っている。

来年度も行うのであれば、次はマークのデザインから子どもたちとの対話の中で決めていくことから始めてみることも良いと思う。また違う展開では、1年間を通した立体造形を各クラスでテーマを持って作成し、作品展などで展示し、最終的には、3Dプリンターなどでミニチュアを形に残し、子どもたちに提供するなど行っても面白いと感じた。

日頃から、幼稚園生活の遊びの中でアートに触れられる環境作りが大切だと感じる。これまでも、アート遊具の導入を進めており、今年度も、地元彫刻家の小畑多丘氏のアート遊具も導入予定なので、自然とアートに触れられるように工夫していきたい。

報告日 令和6年10月18日